

# 高齢者どこ？アプリで

## 久留米の経営者 介護経験基に

# 見かけたらボタン、情報共有

一人で外出して行方不明になったお年寄りを早期発見するためのアプリを、久留米市のソフト開発会社が開発した。自らも介護に悩んだ経験を持つ経営者が考案したもので、「高齢者や家族の安全、安心のために、アプリを広めたい」と、県内外の自治体や福祉施設などに導入、協力を働きかけている。

(大石健一)



「リンク」の画面。地図上に目撃情報などが表示される

同市津福本町の「インターネット・イノベーショ

ン」が開発した見守り地図アプリ「リンク」。家族、親戚、友人、施設関係者らのスマートフォンなどにインストールしてもらい、行方不明者が出れば一斉に捜索を依頼できる。登録者は行方不明者を見かけたら、アプリ内の発見ボタンを押すだけで位置や時間の情報を伝えられ、写真も送れる。

同社によると、通常、認知症などのお年寄りが行方不明になると、家族が周辺を探し、知人に電話で尋ね、それでも見つからないと警察に通報するパターンが多い。アプリを活用すれば、

電話で一人一人依頼する手

間が省け、早期発見につながられるという。

同社の弥吉伸二会長(63)は約10年前、母親が行方不明になった際、背格好や服装などを警察に伝えるのに苦労した。「多くの家庭が同じ経験をしているはずだ」と考え、開発したという。

お年寄りが自宅で暮らし、出歩くことで健康維持を図るよう推奨する久留米リハビリテーション病院(久留米市山本町)では昨

年12月、関連の介護施設や地域の代表ら向けに、アプリの説明会を開催。柴田元院長は「行方不明者を家族や施設職員だけで探すのは限界がある。民生委員やコンビニ、宅配業者などが登録すれば、より有効だ」と評価する。筑後信用金庫も趣旨に賛同し、外回りの職員が登録するなど協力している。

県警によると、県内の60歳以上の行方不明の届け出(2019年)は976件に上る。弥吉会長は自治体にも職員の登録などを呼びかけており、「お年寄り

の命を守るため、ぜひ導入を考えてほしい」と話している。

認知症高齢者が一人で外出した際に感知できる機器(月額650円)など同社製品を使ってもらえば、

アプリは無料で利用できる。問い合わせはインターネット・イノベーショ

(0942・39・3955)へ。